

別れのメッセージ

上原 昇 (2組)

「よろしく、頼むよ！」と宮原豊君から連絡があったのは昨年(2020年)の11月頃でした。宮原君は何年か前に、松尾倶楽部の講演会でインドの話をする事になっていました。コロナ禍のために講演は中止となっていました。昨年秋に再開することになりました。その時、宮原君は入院中で講演をすることは出来ない状態でした。彼からの依頼は、その講演の代講(という言葉があるのを初めて知りました)を筆者にしてくださいというのです。彼らしい、周到に準備されたスピーチ原稿や資料も届きました。彼の気持ちを押し量れば、断る理由はありません。その代講の行われたのが昨年(2020年)の12月8日のことで、3か月も経っていません。

(代講の様子は、昨年(2020年)の12月10、13日付HPを参照ください)

こんなに早く訃報が届くとは思っていませんでしたので、大変残念でショックを受けました。思えば、高校時代に出会ってから60年以上、大学も一緒に、関東同窓会65期代表幹事などを



通じての同窓会・同期会活動も彼と組んでのことが多かったです。

彼は病氣療養中にもかかわらず、本を2冊上梓したり(写真3)、壁画修復事業でインドに何度も行ったり、精力的に動いたのも身体に無理を強いたのではと思います。ただ、やりたいことを十分やり切った人生のように見えました。

葬儀会場の祭壇

3月2日、3日の葬儀には多くの同期の仲間が集まり、別れを告げました。今から考えると、「インドと私」の代講依頼は、宮原君から筆者への「別れのメッセージ」で、断らなくて良かったと思っています。

長い間の闘病生活で疲れた身体を、しっかりと休めてください。

合掌

写真1：1997年6月、同期会にて、右端が宮原君





写真 2 : 12 年 7 月、関東同窓会総会で実行委員長挨拶

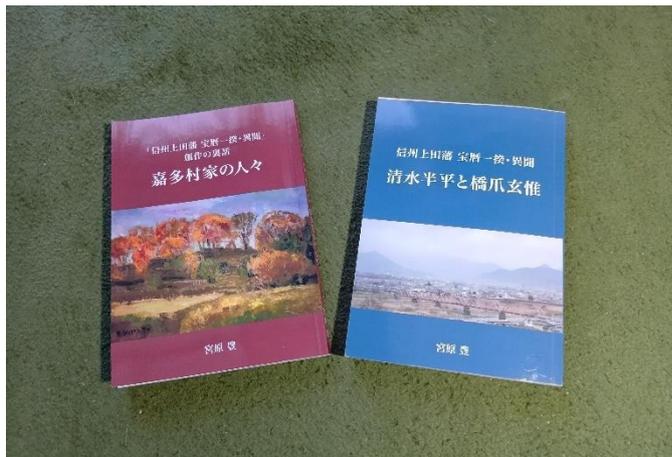


写真 3 : 宮原君の著書

(2026 年 3 月 3 日記)

以上